

# 「想定外を想定しつくした」あらゆる災害に対応できる都市型防災庁舎

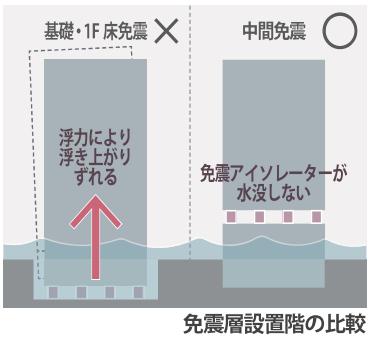
## 災害時の業務継続性の確保に向けた建築・設備計画及びエネルギー計画についての考え方 安全と継続を確実にする二重三重のバックアップ対策

本庁舎周辺で発生しうる様々な自然災害（地震・津波・豪雨・洪水など）に加え、都市型災害（火事・大規模停電・爆発など）にも対応し、事業継続はもとより、長期間災害対策拠点にすみやかに転換でき、自立生活活動も可能な市庁舎とします。

### 地震

都市直下型地震など、想定外の強い揺れにより様々な複合災害が引き起こされます。都市型防災庁舎として免震構造を提案します。

- 壊れないことはもとより、天井や設備機器などの落下や破損等、二次的被害を防ぐため、基準階を中心とした無天井化を図ります。
- 強い本震や長期間に亘る余震、長周期地震の揺れに対応し、その後の津波同時発生まで想定した、免震層の浮き上がりや免震装置が水没しない、中間階免震構造を提案します。



### 水害

本庁舎敷地は津波被害は無いと想定されていますが、多摩川から近く、大震災時の津波遡上による堤防決壊など、大規模水害も想定します。

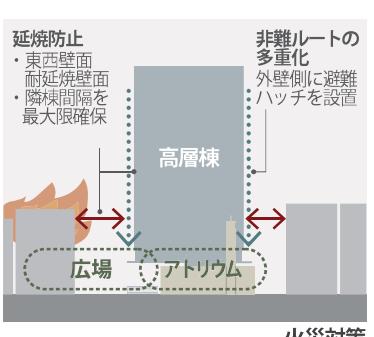
- 主要な機械室は水害の影響を受けない4階以上に配置します。地下に配置せざるをえないポンプ室等の扉には、水密タイプを使用します。
- 免震層は水没の影響を極力避ける為、4階床下の中間層に配置します。
- 1階床レベルを周囲地盤から勾配により極力上げることで、ゲリラ豪雨等においても被害を最小限に抑えます。



### 火災

本庁舎敷地周辺は、高層ビルや飲食店が密集し、大規模な火災被害も予想されます。延焼など火災防止対策と避難対策を最重要視して計画します。

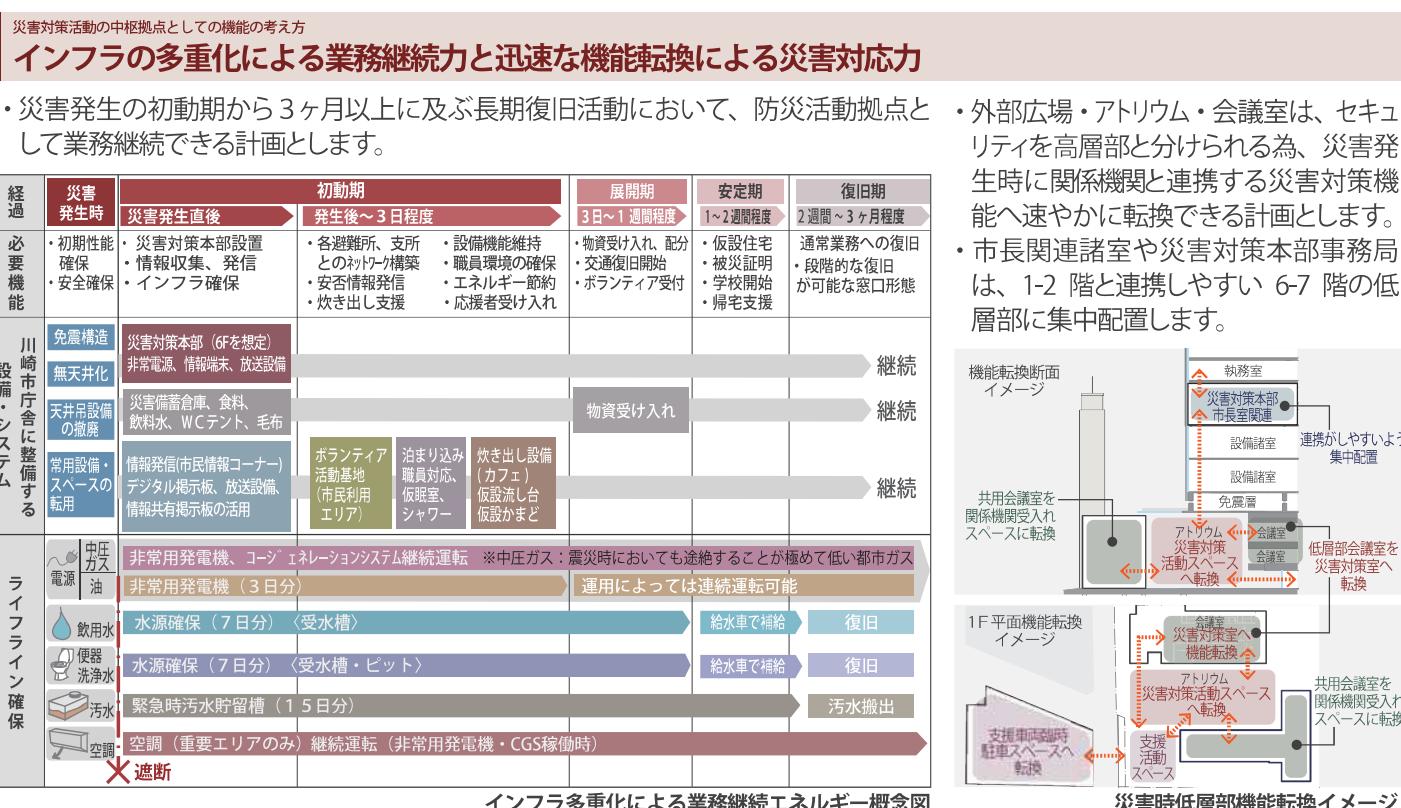
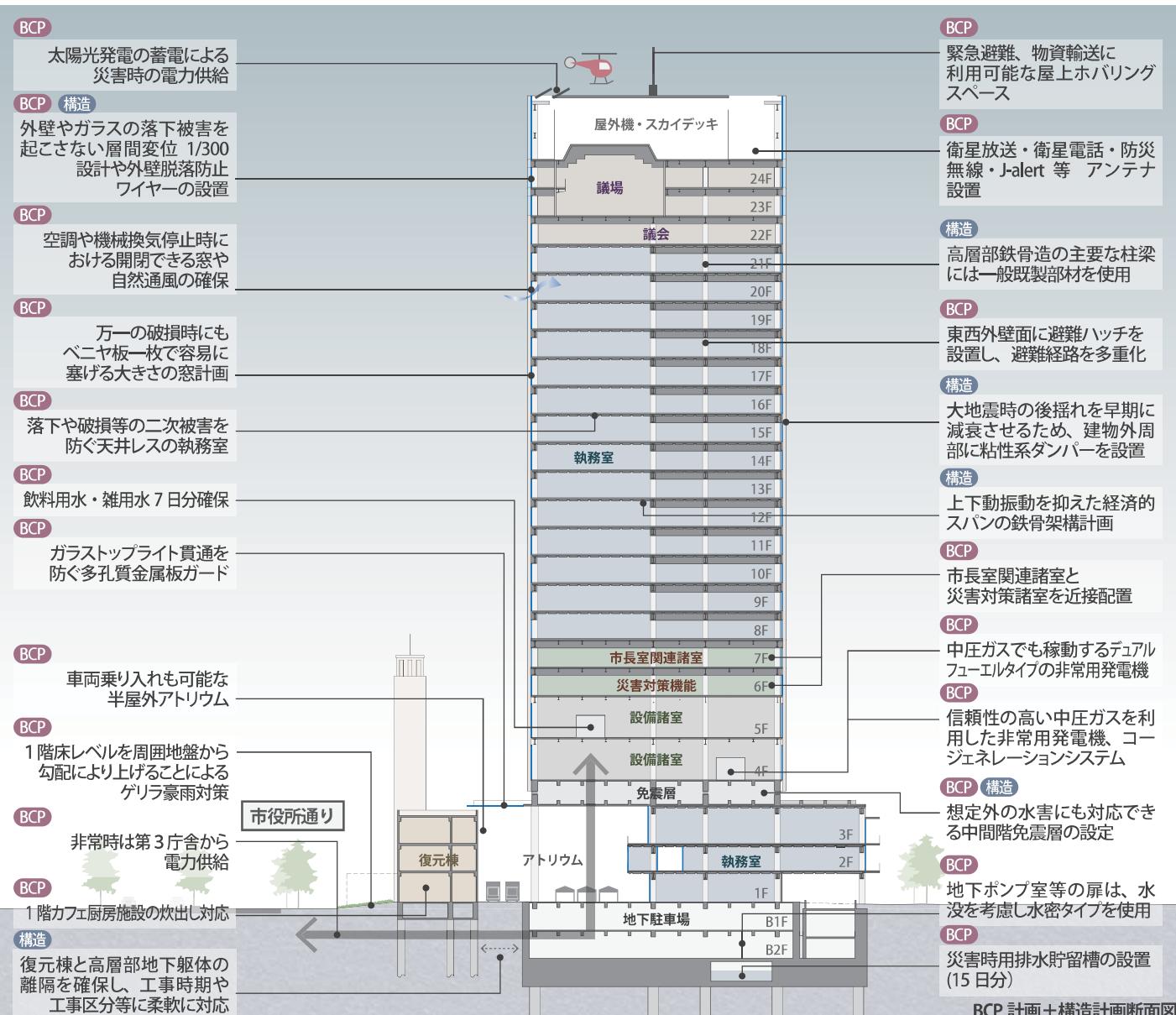
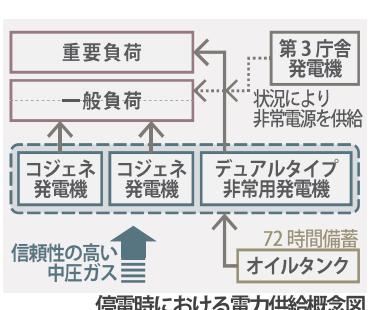
- 近隣からの延焼を避けるため、東西側は隣接間隔を確保した上で窓の少ない壁面とし、延焼を防止します。
- 高層部階段に至る避難経路に加え、万全を期すためにも、外壁側に避難ハッチを設置し、避難経路を多重化します。
- 広場・アトリウムなど広い消防活動スペースを確保し、アトリウム天井は木を使わず不燃化して計画します。



### 停電

送電ルート喪失は、地震・落雷や、人的ミス等でも日常的に発生します。様々な状況に応じて、通常業務を継続できる電力供給システムを提案します。

- 発電機は、冷却水断絶も想定した空冷式を採用します。備蓄オイルによる72時間発電に加え、耐震性の高い中圧ガスも併用するデュアルフルーエルタイプを採用し、状況により長期間電源を確保します。
- 地下連絡通路を経由して、第3庁舎からの非常用電力の供給を図ります。



## 最新の知見に基づいた、効果的な耐震技術の導入による構造計画の考え方 想定外の地震波・余震・超高層特有の揺れも考慮

### 基準階高層部を免震とした経済合理性の高い中間免震構造

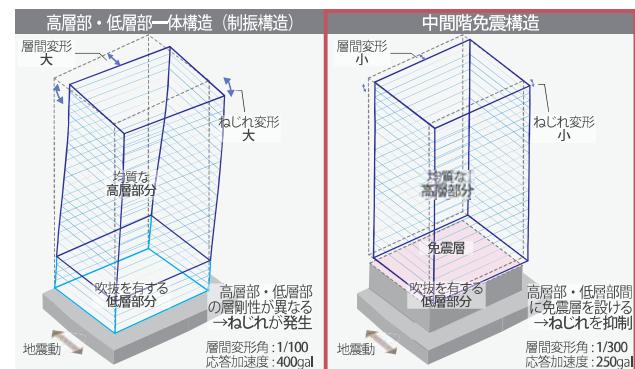
- 成形でコンパクトな基準階を免震構造とし、建築面積の大きい低層階は上部構造の基壇となる強固な剛性の高い制振構造とします。
- 高層部の大きなねじれ変形を免震構造で制御し、地震加速度の小さい低層部は制振構造により、揺れを抑え、無天井化などの2次災害対策を万全にします。

構造形式比較	中間免震(中間階)	中間免震(1F)	基礎免震	制震
構造形式				
建築計画コスト(総工事費%)	◎ 102%	△ 107%	○ 110%	○ 100%
評価	◎	△	○	○

構造検討比較検討イメージ図

### 長周期長時間地震動に対する対策

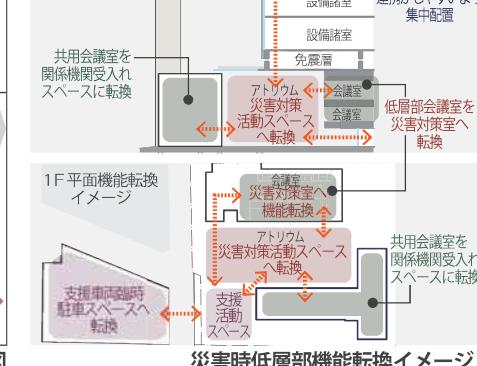
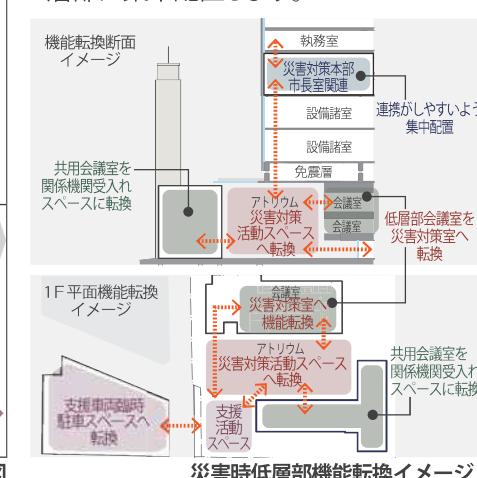
- 長時間に亘る繰り返しの揺れに対し、安定した履歴特性を維持できるダンパーや支承（天然ゴム系積層ゴム、鉛入り積層ゴム、座屈拘束プレース、オイルダンパー等）を選択します。
- 超高層建物で問題となる後揺れを早期減衰させるため、建物外周部分に粘性系のダンパーを配置します。



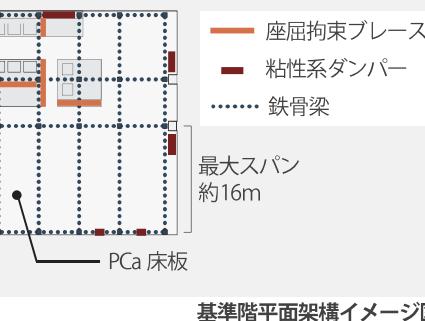
中間階免震構造の効果イメージ図(変形図)

### イニシャルコスト及びライフサイクルコストに配慮した構造計画の考え方 シンプルで合理的な構造計画でコストを抑え 免震により耐久性を高めた長寿命(100年)建築

- 超高層部平面架構は、鉄骨造における上下動震動の影響の少ない経済スパンの約6.4m×16mで計画します。
- 鉄骨造の主要な柱梁には、安価な既成部材の冷間成形コラムや、H形鋼を主に使用します。
- コンクリート主体のCFT柱とし、高層建物の大きな軸力をコンクリートに負担させ鉄骨の使用量を削減します。
- 復元棟と高層部地下躯体を近接させないことで、杭打設や掘削仮設の容易さ、工事中のヤード確保、工期の柔軟性など、工事しやすい計画で経費を低減します。



災害時低層部機能転換イメージ図



基準階平面架構イメージ図

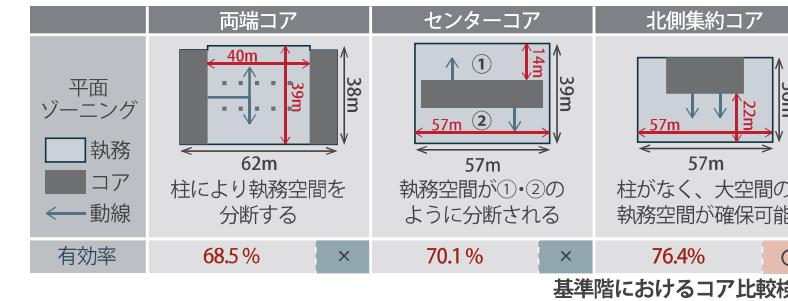
# 自由度の高いプランニングと確実なセキュリティを実現する高層型庁舎にふさわしい執務空間

執務空間の快適性を確保しつつ、将来の行政運営やICT化の進歩等を見据えた柔軟かつ効率的な執務空間の考え方

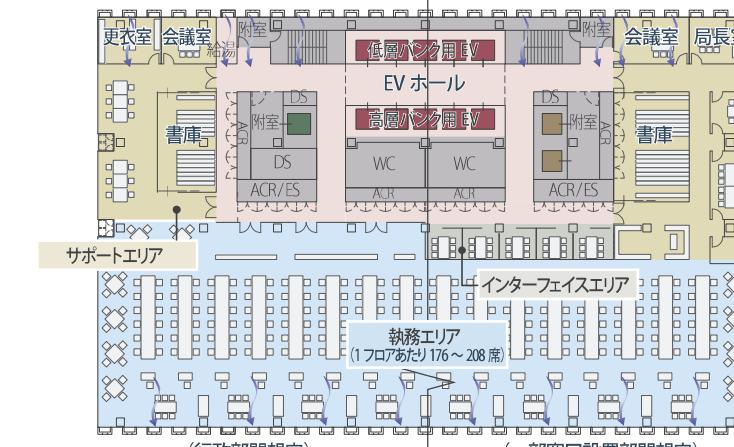
## コンパクトなコアにより自由度の高いプランニングを実現

### コンパクトな北側コア計画とすることで、大きな執務空間をつくる

- 北側中央部にコアを集約し、南側・東西側に柱の制約が無く、効率の良い執務スペースを配置し、有効率の高い執務空間を確保します。
- 廊下部分を最小限とすることで、執務室までの動線を短くし、分かりやすい動線計画を実現します。



### 様々なレイアウトを可能にするユニバーサルプランニング



### <3つの執務エリアゾーニング>

- 執務エリア：間口 57m × 奥行き 17m の無柱空間を南側に集約配置
- インターフェイスエリア：来庁者の窓口機能、打合せ、相談室等
- サポートエリア：業務支援の更衣室・倉庫・書庫を集約配置
- 上級者室や会議室の小部屋対応エリア

### セキュリティ強化と業務効率化を実現するICT計画

#### <セキュリティ・効率化>

- ICカード利用で入退館退勤記録、エレベーター制御、照明空調運動。
- エレベーター階先行予約システム導入により、停止階数を抑制。



#### <コミュニケーション>

- 他言語障害者対応デジタルサイネージ、低層部に「かわさきWi-Fi」の導入。
- ペーパーレス会議システム、会議室備品等予約システムの導入。

#### <ワイヤレス(無線化)>

- 情報の機密度に応じた執務室無線LAN、会議マイクシステム無線化。
- 照明空調制御の無線信号化で、柔軟な間仕切り変更が可能。

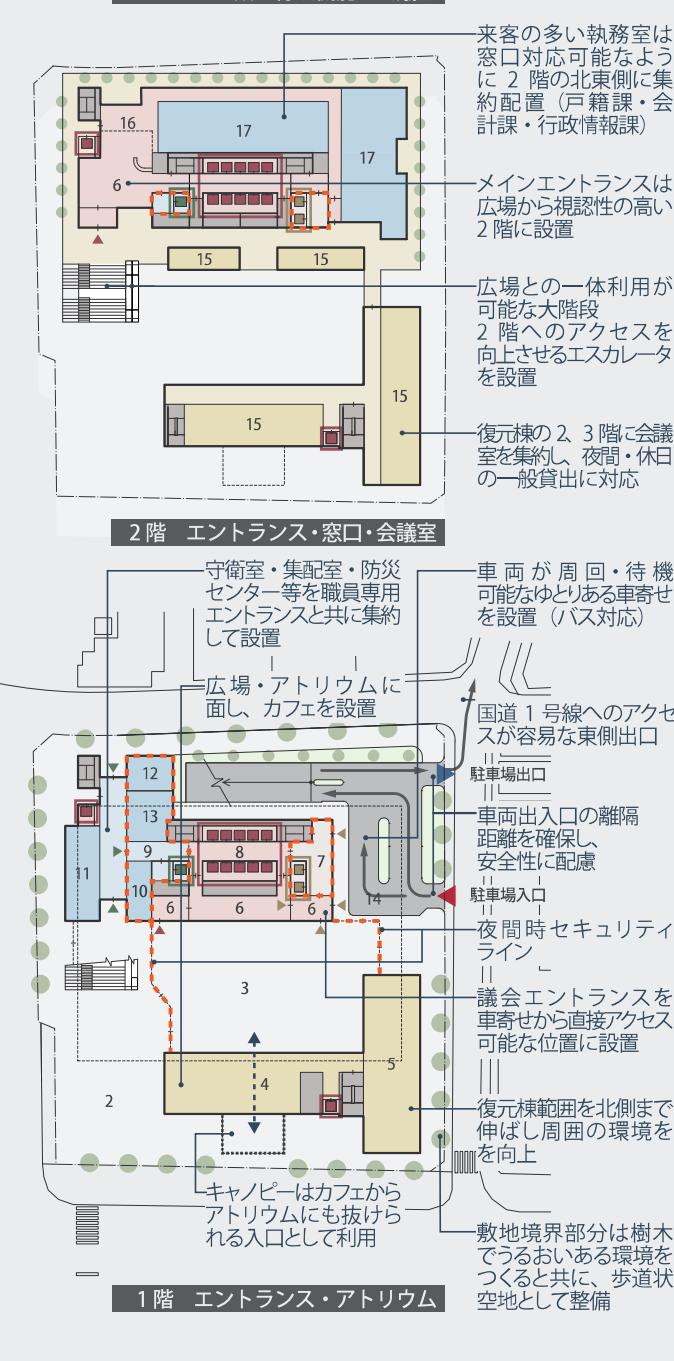
イニシャルコスト及びライフサイクルコストに配慮した執務空間の考え方

### 機能集約化による面積の合理化とランニングコストの縮減

#### 機能集約による有効率の向上により、延べ面積の合理化を実現

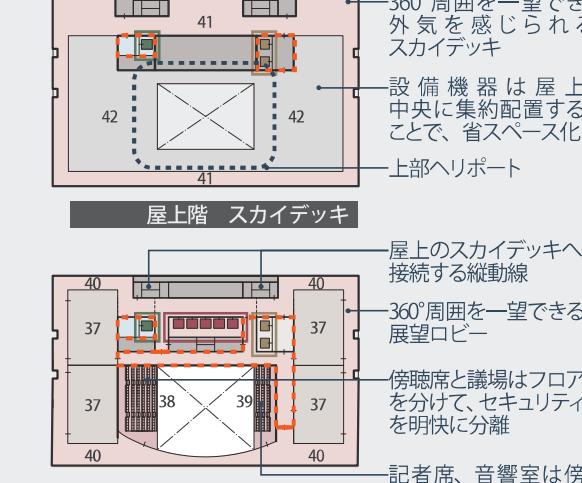
- 効率良いレイアウト、無柱の執務室計画により、一人当たり執務面積 $8.34 \text{ m}^2/\text{人} \rightarrow 7.8 \text{ m}^2/\text{人}$ とし、執務室面積を約 $1,500 \text{ m}^2$ 縮減。
- 効率の良いコア計画により、共用部比率を低減し、基準階レンタブル比76.4%（基本計画参考プランより約8%向上）とすることで、延床面積全体で約 $7,000 \text{ m}^2$ 面積縮減。
- ユニバーサルレイアウトにより、廃棄移転や作業費も含めたコスト低減。
- 詳細な交通計算により、高層用EVの台数を12台→10台へ縮減。

■ 来庁者用EV・出入口	■ 議会専用EV・出入口	■ 職員専用EV・出入口	■ 議会専用エリア	■ 市長関連エリア	■ 職員専用エリア	■ 来庁者エリア	-----セキュリティーライン-----
1. 第二庁舎待合地場	7. 議会ロビー	13. 防災センター	19. 地下駐車場	25. 秘書課応接室	31. 議会会議室	37. 委員会室	41. スカイデッキ
2. 広場	8. EVホール	14. 車寄せ	20. 地下連絡通路	26. 特別会議室	32. 会議図書館	38. 傍聴席	42. 機械室
3. アトリウム	9. 職員ロビー	15. 会議室	21. 市長室	27. 政策担当	33. 正副議長室	39. 記者席・音響室	
4. カフェ	10. 守衛室	16. 待合スペース	22. 市長応接室・市長公室長	28. 記者会見室	34. 議会局事務室	40. 展望ロビー	
5. 情報プラザ・ギャラリー	11. 銀行	17. 執務室	23. 副市長室	29. 記者クラブ	35. 議場	41. スカイデッキ	
6. エントランスホール	12. 集配室	18. 第外テラス	24. 総務課事務室	30. 議員会議室	36. 全員協議会室		



開庁時	閉庁時	深夜
-一般EV 1F~24F	職員専用EV 利用	停止
-一般EV 2F~3F	B2F~3F	*B2F~3F
-一般EV 3F~4F	B2F~3F	B2F~3F
-職員EV 全階着床	全階着床	停止
-議会EV 全階着床	全階着床	停止

\*1~3Fは外部側のみ出入可能  
●停止階



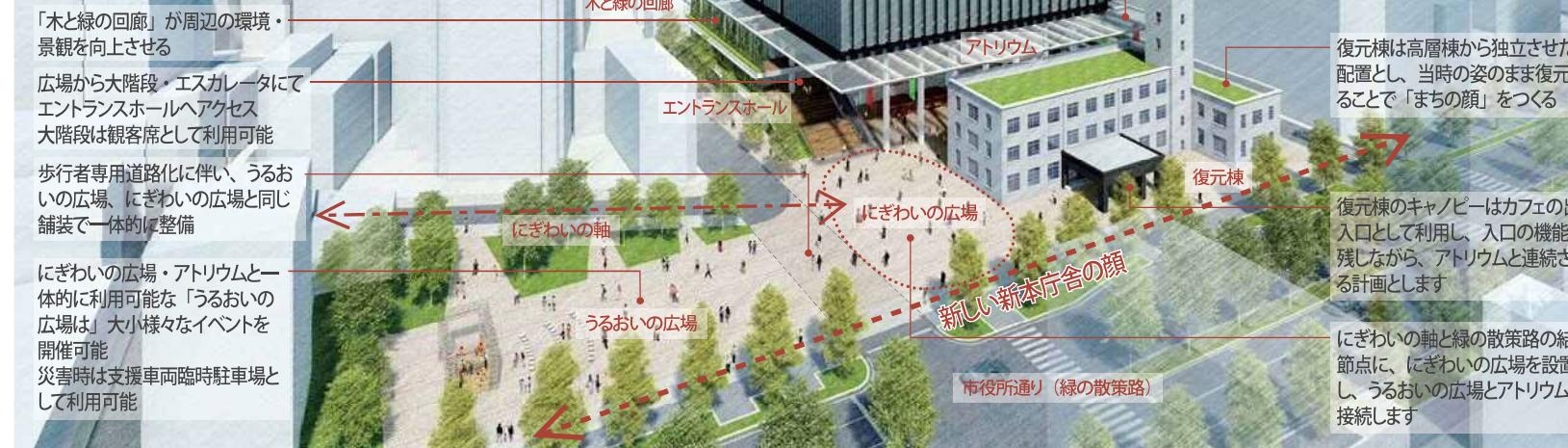
# 歴史と現在をつなぎ「未来をつくる」ランドマーク

復元棟を核にした情報発信のシンボルとなる低層部と、重なり合う多様性の姿を体現した高層部の建築デザイン

**多様性のデザイン**  
ある時は威厳のある壁面に、ある時なスレンダーな姿に、ある時はスタイリッシュなストライプに、様々な印象をつくりだす分節によるデザインとします。

**奥行きのデザイン**  
都市の顔となる新本庁舎のファサードは、適度なブラインド効果により、内部のプライバシーを確保しながらオフィスの明かりが簡単に露出しない街に対する配慮のあるデザインとします。

**点景のデザイン**  
ガラスの中に木材を象徴的に魅せ、都市の風景と自然素材のコントラストが印象的なランドマークとします。



遠景からの視認性に配慮した中高層部のデザインの考え方

## 連続 × 集積により多様な姿が現れるシンプルに潜む多様性を持ったデザイン

**多様な視覚的变化を見せる遠景のデザイン**

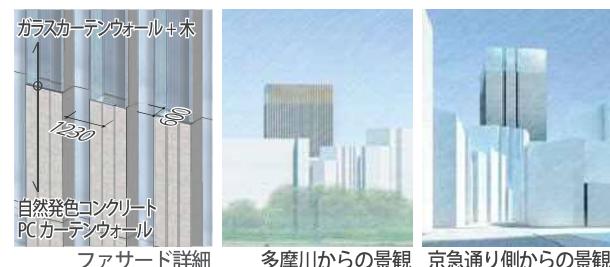
- ・シンプルなデザインでありながら、見る場所や角度により、多様な見え方をする外装デザインとします。

**奥行きのある市庁舎の顔となるデザイン**

- ・一般的なオフィスビルのような薄いファサードではなく、採光や眺望を確保しながらも、外部からの視覚的露出をブラインドする効果を持つ縦リブ状壁面の奥行きあるファサードとします。

**点景のあるスカイラインの形成**

- ・建物の頂部は、視覚的なシンボルのデザインとし、遠景からは都市の点景としてランドマーク性のあるスカイラインを形成します。



遠景からの視認性に配慮した中高層部のデザインの考え方

## 独立した復元棟がつくる「まちの顔」

**新しい市庁舎の顔となる玄関性の高いファサード**

- ・市役所通りに対し、第 2 庁舎跡地広場・本庁舎敷地広場と復元棟により、低層でゆとりあるフロンテージを構成することで新しい市庁舎の顔をつくります。

**復元棟の良さをそのまま活かした計画**

- ・復元棟は高層棟から独立させた配置とし、既存の形態や時計塔、車寄せなどの構成を継承します。構造体を高層棟と分離し、コストや工期に影響が少ない計画とします。

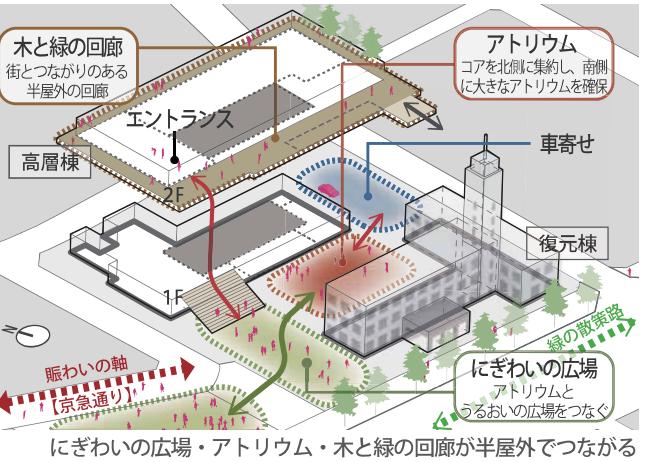


まちのにぎわいを創出する低層部、アトリウム、ピロティ、広場の空間づくりの考え方

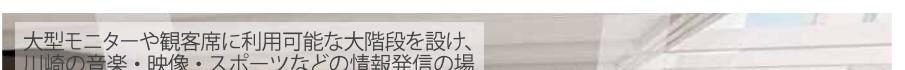
## 復元棟 × にぎわいの広場 × 木と緑の回廊に囲まれた情報発信広場をつくる

**うるおいの広場と繋がる「にぎわいの広場」を設置**

- ・都市計画上の「賑わいの軸」と「緑の散策路」の結節点となる本敷地の南東側に「にぎわいの広場」を設け、第 2 庁舎跡地のうるおいの広場と一体利用可能な設えとします。

**情報発信となるアトリウムを平面的に最大限確保**

- ・高層棟のコアを北側に集約し、大きな半外部のアトリウム空間を確保します。市役所機能に支障なく、様々なイベントに対応可能な計画とします。

**低層階のにぎわいをつくりだす半屋外の公共空間**

- ・にぎわいの広場・アトリウム・木と緑の回廊が半屋外でつながり、誰もが自由に通り抜けができる計画とし、会議室等は外部からの直接の利用が可能です。
- ・休日も開放可能な計画とし、市民の様々な活動があふれ、豊かなコミュニケーションが相互に行われる、賑やかな活動拠点となる場を提供します。

復元棟と木と緑の回廊に囲まれるアトリウムイベントスペース

国産木材や緑を効果的に活用した質の高い低層部のデザインの考え方

## 半外部空間の「木と緑の回廊」がつくるうるおいある市民の居場所

**活動が身近に感じる回廊**

- ・様々な活動を身近に感じることができるヒューマンスケールの回廊空間と、市民が用事もなく、気軽に立ち寄れる市民の居場所となる場をつくります。



うるおいある街路環境をつくる木と緑の回廊

**安全性と耐久性に配慮したデザイン**

- ・木材は火災の懸念がある天井や外壁面には採用せず、床と内側壁面のみに使用します
- ・建物外周は、壁面緑化により、うるおいのある街路環境を提供します。

イニシャルコスト及びランニングコストに配慮したデザインの考え方

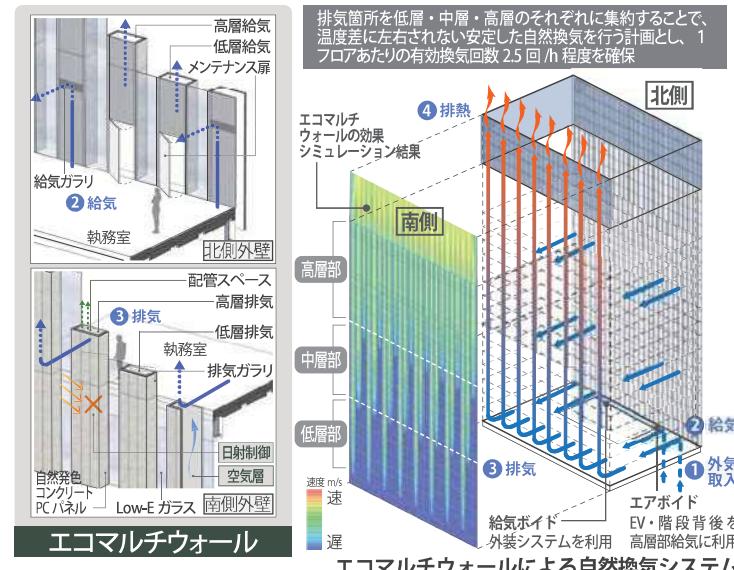
## メンテナンスフリーの半外部空間とユニット化による高層部の外装計画

コスト削減に配慮したデザイン手法	イニシャルコスト削減効果	ランニングコスト削減効果
低層部 アトリウムの半外部化	外装面積の削減	空調面積の縮減
低層部 復元棟と高層棟の切り離し	躯体の合理化・工事区分、時期に柔軟に対応	外装等更新時の道連れ工事の縮減
高層部 外装・PC 外壁の採用	ユニット化・二次部材の削減	ガスケット利用によるシール打ち換え費削減
高層部 外装・窓面積の縮減	ガラス面積の縮減	日射負荷軽減・清掃面積減
高層部 整形化執務空間	平面計画と設備計画のモジュール化	間仕切り変更や設備更新の柔軟性向上

# 建築計画と設備技術が統合し、自然の力を有効に活用しながら実現する省エネ庁舎

## 温室効果ガス等の排出削減に配慮した設計手法についての考え方 空気の流れる省エネ型外装自然換気システム エコマルチウォール

日射負荷抑制のため、従来のダブルスキンを発展させた、より低コストで確実に省エネ性能を発揮する、外壁空気層を利用した省エネシステム『エコマルチウォール』を提案します。



### 外壁空気層

・外壁面より外側に空気層を設けることで、日射による冷房負荷を大幅に削減します。

### 自然換気利用

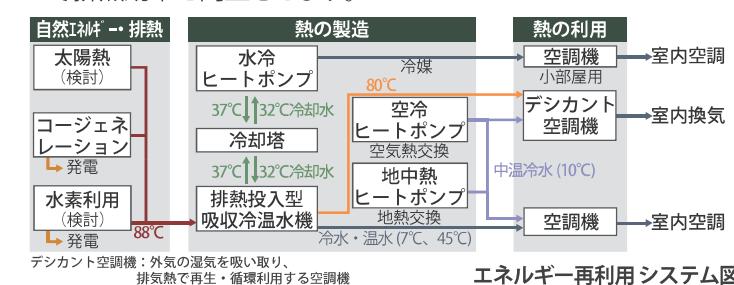
・南面への日差しが強い中間期には、南側外壁空気層（上層階ガラス空気層）内の上昇気流を駆動力（チムニー効果）として自然換気を行い、冷房期間の短縮を図ります。  
・外気取り入れには免震ピットを経由し、北側外壁空気層を利用します。免震ピットに抵抗の小さい消音・空気清浄器を設け、騒音や排気ガス等に配慮した都市型自然換気を実現します。  
・夏には天井付近の暑い空気を、冬には床付近の冷たい空気を、効率よく屋外に排出し、年間を通じて室内環境の向上を図ります。

外壁開口部比較	カーテンウォール	ボツ窓	エコマルチウォール
日射負荷	1431kW/m <sup>2</sup> ・年	432kW/m <sup>2</sup> ・年	156kW/m <sup>2</sup> ・年
100% ×	30% ○	11% ○	
昼光率	1.0	0.3	0.5
ガラス比率	7.5%	2.8%	3.2%
総合評価	×	△	○

外壁開口部の比較検討

### エネルギーの超高効率利用

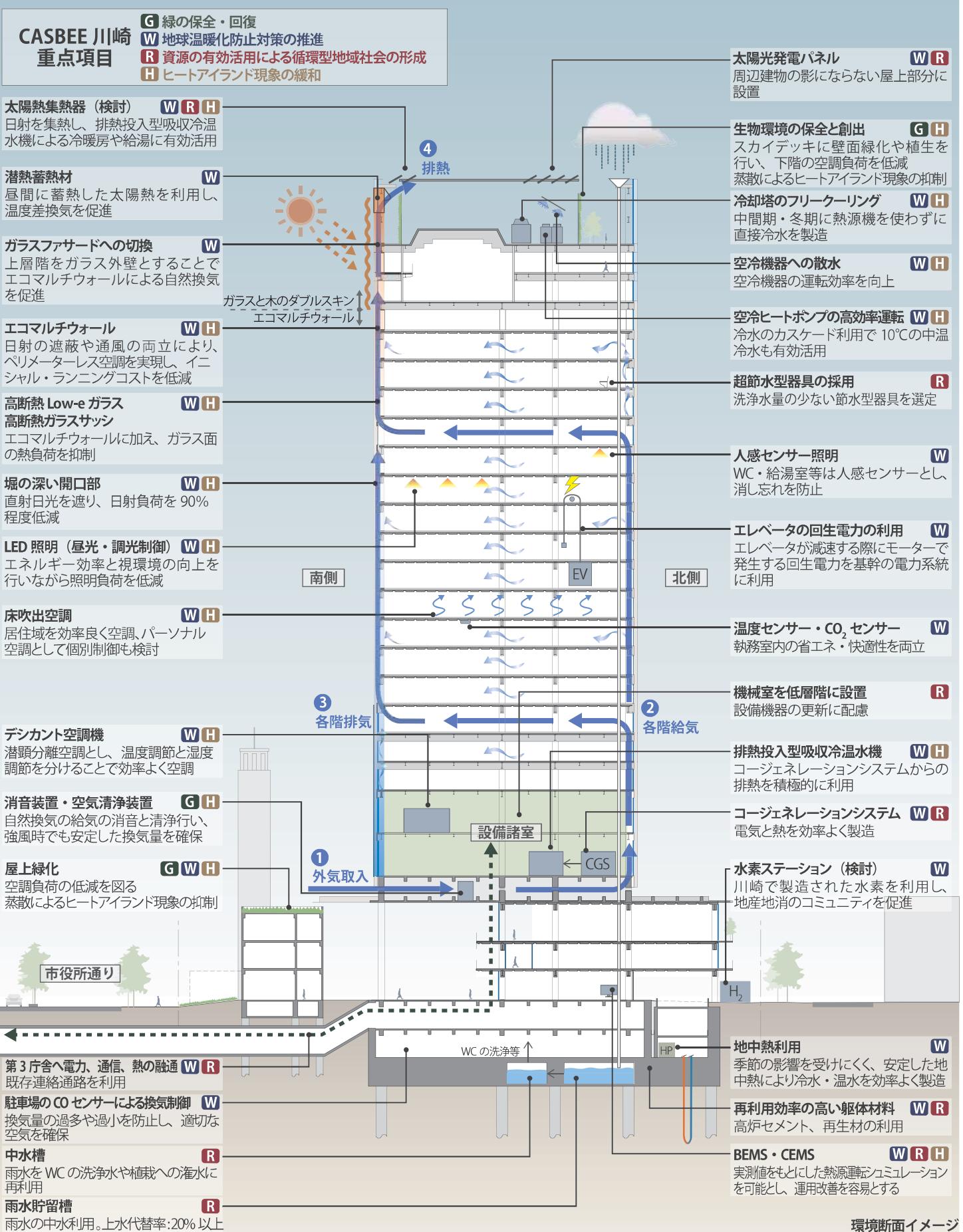
・コージェネレーションシステムの排熱や太陽熱を冷水・温水に変換し、冷暖房に利用することで、年間を通じてエネルギーの効率化を図ります。  
・夏季は排熱をデシカント空調機の再生部分に再利用することで排熱効率を向上させます。



エネルギー再利用システム図

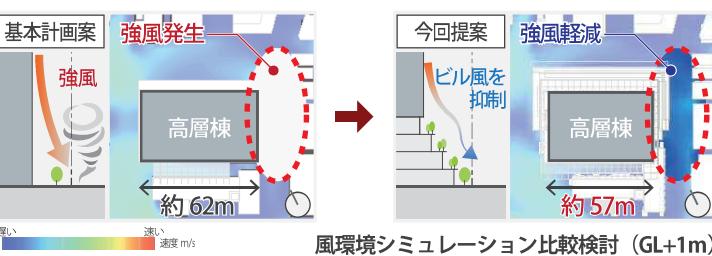
## CASBEE Sランク 都市型環境配慮庁舎

イニシャルコストを考慮し、CASBEE 川崎（建築物環境総括性能評価制度）において重点項目とされている4項目を中心に環境配慮技術を取り入れ、最高ランク "S" を確実に実現します。単位環境負荷あたりの建築物の環境品質・市民サービスの経済価値を向上させ、BEE 値（建築物の環境性能効率）の高い都市型の環境配慮庁舎とし、温室効果ガス等の排出を削減を実現します。



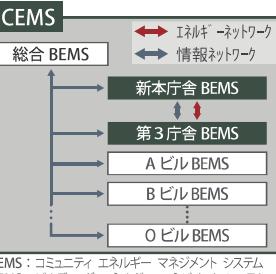
## 周辺への影響を極力低減した建築計画

- ・高層棟をコンパクトにすることにより、周辺への日影や圧迫感を低減します。
- ・低層部は、高層棟から張り出した形状と緑化により、高層棟外壁を伝って、吹き降ろすビル風を受け止め低減します。



## 地域エネルギー管理の推進

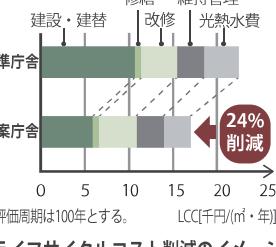
庁舎エリア：新本庁舎と第3庁舎間で電力・情報・熱で融通し、連携することで、効率よいエネルギー管理を検討します。  
川崎駅前エリア：周辺街区とエネルギーデータを共有します。地域エリアでのデマンドレスポンス制御により、エリア全体でのピークカットが行えるシステムを検討します。



周辺とのネットワークイメージ

## 従来技術の統合・多機能化による環境配慮手法

- ・多機能で安価な外装システムにより、熱負荷を抑制することで、設備機器の容量を下げ、設備スペースを削減し、イニシャルコストを低減します。
- ・高効率・長寿命な機器の採用、自然エネルギーを利用することで、光熱水費、維持管理費を削減し、ライフサイクルコストを低減します。



ライフサイクルコスト削減のイメージ

### 省エネルギー手法

省エネルギー手法	年間CO <sub>2</sub> 排出量の削減率	年間光熱水費の削減率
熱負荷の抑制 ・エコマルチウォール ・高断熱Low-eガラス等	-10.8%	-12.4%
自然エネルギーの有効利用 ・太陽光発電 ・地中熱利用 ・雨水利用 ・自然通風	-1.7%	-3.5%
設備の高効率化 ・高効率熱源システム ・熱源最適制御 ・中温冷水利用 ・LED照明 ・エレベーターの回生電力等	-9.4%	-5.3%
快適な執務環境と省エネの両立 ・潜熱分離空調システム ・タスクアシピメント照明等	-1.8%	-1.3%
※ 平成26年・27年の平均値	-23.8%	-22.4%

年間CO<sub>2</sub>排出量

既存第3庁舎	3,410t-CO <sub>2</sub> /年
今回の提案（目標）	2,600t-CO <sub>2</sub> /年

24%削減

年間光熱水費
既存第3庁舎 延床面積当たり 3,829円/m <sup>2</sup> ・年
今回の提案（目標） 延床面積当たり 3,013円/m <sup>2</sup> ・年

22%削減

環境技術導入のイメージ

## 環境配慮関連補助金を活用検討し 川崎市の事業費負担を低減

再生可能エネルギーの導入や、エネルギーの高効率利用等、環境配慮関連の補助金導入可能性調査等をサポートします。

### 環境配慮関係補助金リスト（参考）

- ・再生可能エネルギー・熱自立の普及促進事業（発電熱利用設備等に対する補助事業）
- ・再生可能エネルギー・熱利用加速化支援策補助金（太陽熱・地中熱整備等に対する補助事業）
- ・優良建築物等整備事業（外構整備等町街並み整備に対する補助事業）
- ・都市再生整備計画事業（多目的広場等まちづくり施設整備に対する補助金）

等

基本設計期間に重点を置き、具体的ツールによる比較検討とコスト管理をタイムリーに行う設計体制

構造計画、執務空間、デザイン、環境配慮等の検討の過程における、  
イニシエルコスト及びライフサイクルコストを含めた複数案比較の考え方及び、発注者との合意形成のプロセスについて

基本設計早期にモデル計画案を作成し

模造三上

- ・早期に市準備室と学識経験者を交えて川崎新本庁舎にふさわしい構造の考え方を協議共有し、設計に着手します。
  - ・免震・制震構造に代表される構造的相違や、各々のメリット・デメリットを明らかにしながら、コストも含め費用対効果の比較検討を行います。
  - ・工期への影響も含めて仮説計画コストの比較検証を行います。

動搖空間

- ・ユニバーサルレイアウト導入による新規什器購入費用に対して、レイアウト効率化による面積低減や、組織変更異動に伴う費用・人件費など、導入範囲も含めた比較検討を行います。
  - ・既存家具や従来型レイアウトを想定した場合の、更新廃棄費用等含め、LCC的視点からも比較検証を行います。

デザイン

- ・ヴァーチャルリアリティによる、曲面大画面スクリーンやグラスマニターなどを使用した、実体感に近い検証機会を設けます。
  - ・BIM、CG、模型等三次元モデルを利用して内外観デザイン、景観、構造、環境シミュレーションなどの課題を視覚化し、わかりやすい形で様々な関係者の情報認識を共有します。

環境配慮

- ・建築計画と密接に関係する設備計画（外装と負荷低減・熱源計画・自然換気計画・メンテナンスや将来対応）は、早期に手法や考え方の違いを明確化し、コストやLCC、環境への影響も含めて総合的に比較検討を行います。
  - ・各種環境配慮手法採用によるイニシャルコストに対する高熱水費などランニングコストの低減効果を、わかりやすいグラフや表にまとめ、比較検証を行い採用是非を決定します。
  - ・BCPとしての有効性、環境対策アピールなど、定量化しにくい項目に対しても、総合的な評価を行い、採用是非を決定します。

発注者との合意形成のプロセスを含む作業スケジュール管理の考え方について

いつ何を検討し合意形成するかを明確化するロードマップを作成します

基本設計期間を 2.5 ヶ月毎 4 つの段階で管理します

- ・**基本設計①** 与条件を元に早期にモデル計画案で大きな方針を確定し、工事費概算を行います。
  - ・**基本設計②** デザインを検討を開始し、内外観イメージや形態等環境アセスメントとも連携します。
  - ・**基本設計③** 詳細なプランやデザイン、設備・構造など仕様を具体化し設計を深化させます。
  - ・**基本設計④** 積み残した課題や未決定事項を再度抽出決定し、実施設計に入る準備をします。

各段階で概算を行い、コストマネジメント専任者が一貫管理して目標工事額を厳守します

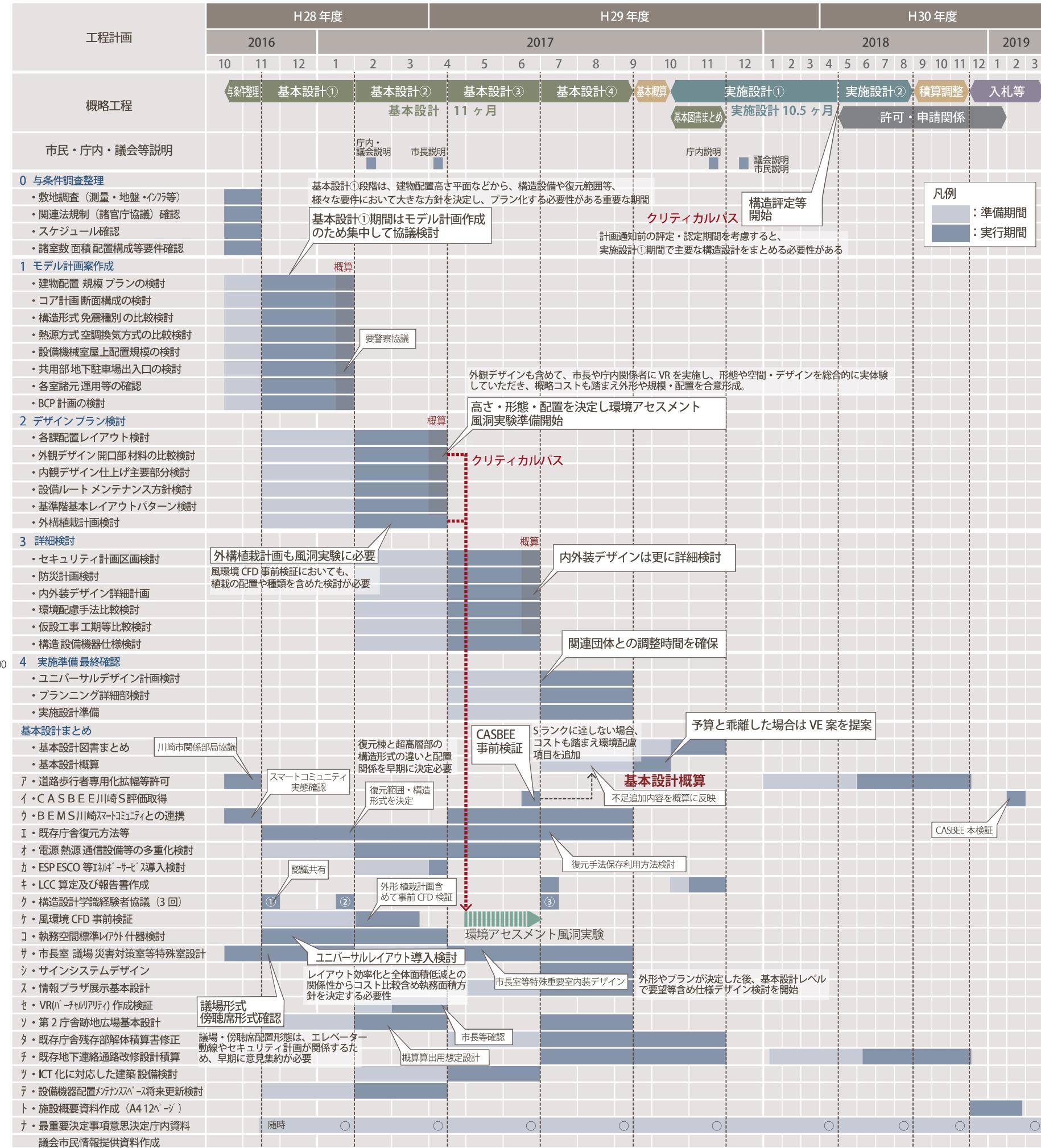
- ・基本設計段階においては、概算でモデルプランの工事費や数量をつかみ、部位ごとの予算比較検証しながら目標コストを設定し、適格なVE検討で基本概算時に検証します。
  - ・実施設計段階においては、設計変更管理表で基本設計からの増減を管理しつつ、市場価格の変動時に再度概算を目指す

課題項目のリスト化・川崎市のチック期間を適切に設け・スケジュール管理します。

- ・様々な課題項目の起因者、決定者、決定時期などと問題点をリスト化（見える化）し、関係者全員が共有することで、遅延無く確実にプロジェクトを管理運営します。
  - ・市民、庁内、議会など様々な関係者の合意形成を確実に行うため、適切な時期に計画や資料のチェック期間を設けます。

より綿密なコミュニケーションを実現する、ICT会議システムの導入を提案します

- ・顔を合わせた会議体やコミュニケーションを最重要視しながらも、小規模の分科会等も臨機応変に行える、インターネット回線を利用した会議システムを、川崎市新本庁舎準備室との間に構築します。



#### 基本設計期間を中心としたスケジュールイメージ

# 超高層市庁舎実現に必要な全てを凝縮した設計体制

取組体制及び設計チームの特徴、過去の実績などについて

## 組織設計事務所の総合力と充実した体制で、様々な課題に迅速に対応します

業務の取組体制

### 超高層ビルと市庁舎のエキスパートを集結

超高層ビル及び市庁舎の経験実績豊富な管理技術者が総括し、市庁舎の設計経験豊富な意匠主任技術者を中心に、構造・設備ともに経験豊富な主任技術者を集めた、本業務に最適なベストチームで取り組みます。

### 災害対策やBCP(事業継続)を重要視した設計への取り組み

市庁舎や重要官庁施設、超高層建築における災害時対策及び事業継続の様々な手法に精通した、建築・構造・設備・電気主任技術者が密に連携し、BCPサポートチームからのアドバイスも含めて、最適な計画を導き出します。

設計チームの特徴

### 副主任技術者を配置し、密なコミュニケーションで迅速に業務を遂行

主任技術者を中心に据えながらも、主任技術者と同等の実績を持つ副主任技術者を配置し、各担当主任技術者と密に連携することにより、市準備室とのコミュニケーションを更に手厚くし、要望取り込みや課題解決を迅速に行います。

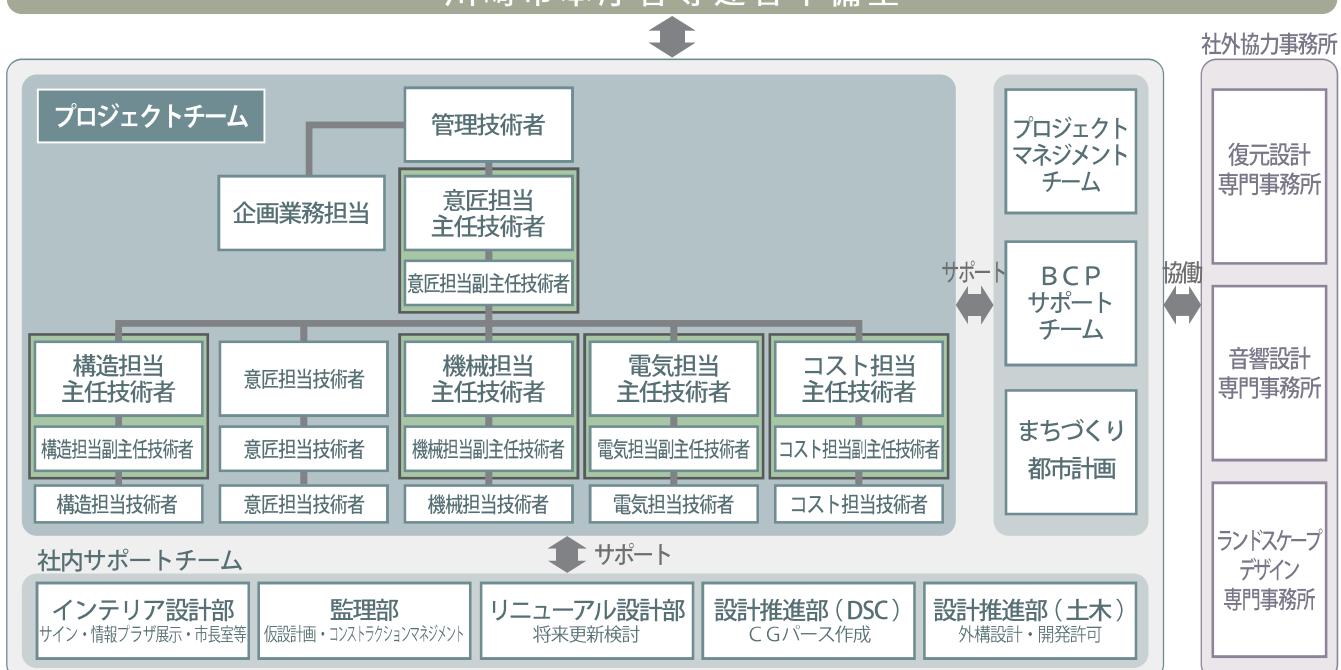
### 適格なコスト検証やスケジュール・工事工程マネジメント等の全社支援

社内コストコントロールセンターは、設計事務所としてトップレベル充実度を誇ります。適切な時期に市況も踏まえたコスト検証を行い、予算状況を共有しながら設計に反映させ、確実に目標予算を遵守します。

社内プロジェクトマネジメントチームにより、複雑な業務マネジメントや発注支援などをサポートします。

工事工程や仮設計画も含めたコンストラクションマネジメントも専門チームがサポートすることで、工期や施工方法によるメリットデメリットを見極め、設計への反映を行います。

## 川崎市本庁舎等建替準備室



### 主任技術者等の実績・手持ち業務状況・役割及び履行期間等

担当者	業務実績					手持ち業務				
管理技術者	都内超高層事務所ビル	176,600 m <sup>2</sup>	B4-25F	124m	免震	A市庁舎基本計画	37,000 m <sup>2</sup>	1-7F	管理技術者	2017年1月まで
	B市庁舎	13,500 m <sup>2</sup>	B1-4F		免震	F市庁舎実施設計	30,000 m <sup>2</sup>	B1-6F	免震	管理技術者 2017年10月まで
意匠担当主任技術者	I市庁舎	9,800 m <sup>2</sup>	1-4F		免震	I市庁舎監理業務	9,800 m <sup>2</sup>	1-4F	免震	主任技術者 2018年4月まで
	B市庁舎	13,500 m <sup>2</sup>	B1-4F		免震	B市庁舎監理業務	13,500 m <sup>2</sup>	B1-4F	免震	主任技術者 2017年7月まで
構造担当主任技術者	M市庁舎	40,000 m <sup>2</sup>	B1-8F		免震	M市庁舎監理業務	40,000 m <sup>2</sup>	B1-8F	免震	主任技術者 2018年6月まで
	都内超高層事務所ビル	176,600 m <sup>2</sup>	B4-25F	124m	免震	F市庁舎実施設計	30,000 m <sup>2</sup>	B1-6F	免震	主任技術者 2017年10月まで
機械担当主任技術者	I市庁舎	9,800 m <sup>2</sup>	1-4F		免震	I市庁舎監理業務	9,800 m <sup>2</sup>	1-4F	免震	主任技術者 2018年4月まで
	中央合同庁舎	253,500 m <sup>2</sup>	B3-38F	175m		A市庁舎基本計画	37,000 m <sup>2</sup>	1-7F	主任技術者	2017年1月まで
電気担当主任技術者	B市庁舎	13,500 m <sup>2</sup>	B1-4F		免震	B市庁舎監理業務	13,500 m <sup>2</sup>	B1-4F	免震	主任技術者 2017年7月まで
	都内超高層事務所ビル	176,600 m <sup>2</sup>	B4-25F	124m	免震	T県サッカースタジアム申請業務	45,000 m <sup>2</sup>	1-4F	主任技術者	2016年10月まで



M市庁舎

B市庁舎

I市庁舎

都内超高層事務所ビル

中央合同庁舎